

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（令和7年度第2回デジタル人材確保・育成特別セミナー）

愛知県弥富市 総務部人事秘書課 横井 理雄

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

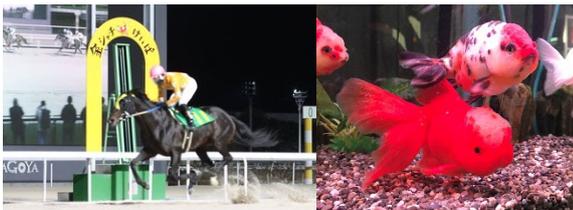
## 1 はじめに

私が暮らし、働いている弥富市は、愛知県西部に位置し、名古屋市に近接する人口約4万3千人の市です。

日本有数の金魚の産地であり、白文鳥の発祥地であるなど、「生き物」にゆかりのあるまちです。令和4年には名古屋競馬場が移転し、新たな地域資源としての役割も担っています。



（文鳥職員のぶんちゃんときくら）



（金シャチけいば）（本庁舎の金魚）

また、伊勢湾に面した港湾機能を有し、物流関連施設の立地により固定資産税収入が比較的安定しているという財政的特徴があります。交通利便性にも恵まれ、都市近郊型のベッドタウンとしての側面もあります。

しかし、こうした強みを持つ本市においても、「2040年問題」に象徴される人口減少や高齢化、担い手不足の課題は避けられません。行政需要は高度化し、制度や業務は複

雑化しています。限られた人的資源で持続可能な行政運営を実現するためには、単なる効率化ではなく、組織の構造や人材の在り方まで踏み込んだ見直しが不可欠です。

私は人事担当者として、DX推進による行政改革の必要性を強く感じてきました。

## 2 職員としての視野を広げてくれた講義

自治大学校の「デジタル人材確保・育成特別セミナー」に参加し、私の視野は大きく広がりました。

講義では、DXを単なるデジタル化ではなく、「自治体経営の再設計」として捉える視点が示されました。人材確保、評価制度、外部専門人材の活用、財政措置との連動などが一体となって初めて変革は機能するという構造が、具体的な事例とともに示されました。理論と具体的な事例が結び付いた講義は理解しやすく、個々の業務に目が向いていた私の視野を、組織全体を見渡す方向へと広げてくれました。

また、組織を変えるためには、全員が一度に変わる必要はなく、まずは約20%の職員が本気で取り組む「クリティカルマス」を生み出すことが重要であるという話も印象に残りました。その一定割合の変化が組織全体に波及し、やがて文化として定着していくという考え方は、改革への確かな希望を感じさせるものでした。

## 3 議論によって、改革の覚悟が芽生えた

演習では、全国の自治体職員とDX推進における課題や打開策について率直に議論を交わしました。意見発表においても、AI等のデジタルツールの活用を前提とした提

案が求められ、既に生成AIを本格的に導入している先進自治体の働き方を目の当たりにしました。そのスピードと成果の質の高さに強い衝撃を受け、自団体との違いを実感しました。

他団体の実践に触れ、このままではいけないという危機感を抱きました。同時に、総務省の支援制度や外部人材派遣制度、財政措置などを効果的に活用しながらDXを推進している実態を知りました。

自治体を支援する国の仕組みは整っており、それをどう活かし、実行に移すかが重要であると認識しました。一歩ずつ着実に改革を進めていく覚悟が芽生えました。

#### 4 庁内横断のDX推進体制へ

研修後、自治大学校での学びや提案を幹部職員と共有する機会をいただき、本市でも関係部局が連携する庁内横断のDX推進体制づくりが動き始めました。まずは部局横断の会議を立ち上げ、方向性や課題の共有から着手している段階です。

まだ、具体的な成果が形になっていないわけではありませんが、人事・企画・財政・デジタル部門が同じテーブルにつき、対話を重ねること自体が大きな一歩であると感じています。

今後は、小さな取組から着実に積み重ね、実効性のある改革へとつなげていきたいと考えています。

#### 5 自治大学校で得た最大の財産

研修後も、参加者との情報交換は続いています。全国の仲間と課題や取組を共有し合うことは、大きな刺激であり、継続的な学びの機会でもあります。

自治大学校で得られたのは知識だけでなく、志を同じくする仲間とのつながりという財産でした。

#### 6 弥富市発展の未来に向けて

自治大学校での経験を通じ、自団体の現在地を見つめ直し、職員としての責任や役割について改めて考えるようになりました。

視野が広がれば、行動が変わる。そして行動が変われば、組織も少しずつ変わっていく。その流れの一端を担えるよう、今後も着実に取り組んでいきたいと考えています。

変革は決して容易ではありません。既存の制度や慣行を変えていくには、丁寧な対話や時間も必要だと思います。

しかし、変えないことのリスクもまた確実に存在すると思います。人口減少社会においては、現状維持そのものが後退になり得ます。

だからこそ、立場に関わらず、目の前の業務の先にある「組織全体の在り方」を意識することが重要だと感じています。

私は人事部門に所属していますが、人事は組織の将来像を形づくる基盤であると考えています。どのような人材を育て、どのように評価し、どのような挑戦を後押しするのか。その積み重ねが、数年後、十数年後の自治体の姿を決定づけます。今回の研修で得た学びは、その判断軸を明確にしてくれました。全国の仲間の姿勢に触れ、自分自身の甘さや視野の狭さにも気づかされました。その気づきは、私にとって大きな財産です。

自治大学校での学びと出会いに恥じることのない取組を続けながら、弥富市の発展に貢献してまいります。



(入校日に撮影した自治大学校正門)